



更衣動作のチェックポイント

気温が夏日を超える日も増えており、段々と夏が近づいてきていると感じる毎日です。

さて今回も理学療法士がご利用者様の生活動作についてどのように「**評価**」、「**目標設定**」を行っているかご紹介したいと思います。

今回は「**更衣**」についてお伝えします！



1. 評価

まず更衣動作を実際に評価、観察をします。大きくは**自立・見守り・介助**、この3つに分けられます。今回、理学療法士がどのように評価を行っているのかをご紹介させていただきます。

1. 上衣・下衣の更衣動作手順を理解する
2. 羽織りものの着脱ができる
3. ボタンやファスナーの開閉が行える
4. 下着の着脱ができる
5. 靴下の着脱ができる
6. 座位にてズボンへ足を通し立ち上がることが出来る

基本的には上記項目を評価していき、問題点を探します。



2. 問題点抽出

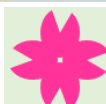
更衣に介助が必要なご利用者様で最も原因として多い問題点は**5. 靴下の着脱**です。理由としては、**前傾姿勢が上手く行えない、足を上げることができない(人工骨頭脱臼の恐れ)**などにより困難な方が多いため、今回は「**前傾姿勢**」と「**ソックスエイド**」についてご紹介させていただきます。



前傾姿勢の促し



ソックスエイド
靴下を履く自助具



3. 目標設定

問題点が抽出できたら身体状況や疾患、ニーズなど複合的角度から目標設定を行います。

【3か月で達成を目指すものを**短期目標**】

【6か月で達成を目指すものを**長期目標**】

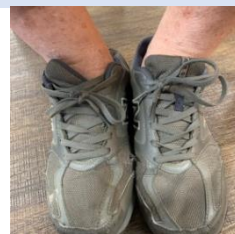
例) 更衣が目標

短期目標: 靴下の着脱ができる

長期目標: 1人で上衣・下衣の更衣動作が自立にて行える



4. 施設での取り組み



はつらつ館で一番大切にしている考え方が、**自立支援**です。上記写真のような場面を発見した場合は一度ご利用者様に行って頂くことをスタッフ一同で共有させて頂いています。

もし担当ご利用者様で更衣動作にお困りの方がいましたら、是非ご相談下さい！